



## 夏こそ、体験を！～偉人はみな自然見だった！～



2001年にノーベル化学賞を受賞された名古屋大学の野依良治教授は、野山で遊んだ体験が自分の生き方の根源になっており、人生を豊かに生きていくためには幼少期から広い自然の中で一人で生きていく力をつけることが必要だと思うと、次世代の子どもたちにメッセー



ジを贈られています。発明王エジソンも、昆虫記を記したファーブルも、子どもの頃に体験したの遊びの延長に大人になった自分がいるという趣旨の内容を語っています。偉人の言葉には、子どもの頃の「自然体験活動」の大切さを訴えているものがたいへん多いと思います。

子どもたちは、自然体験を通して、自然の美しさを発見したり、畏敬の念を抱いたりするとともに、自信や満足感を味わったりできます。夏休みは時間が取れるので、街を離れて、自然体験をする好機です。

また、田舎に行く、旅行をするといった遠くへ行くことばかりではなく、物を作る、課題について調べる、料理をする、動植物を育てる、遊ぶ等、日常の中でもいろいろな体験ができます。その課題を解決するため、試行錯誤しながら追究し、課題解決を図っていく過程で、子どもたちは考える力、判断力、学び方等を身につけることができます。さらに、解決の過程で驚いたり、知的好奇心を高めたり、解決できた達成感を味わったりすることができます。

このように様々な体験を重ねていくことが、考える力や判断力等を培い、感性を豊かにしていきます。それが、今の教育に求められている「生きる力」を育むことになります。そして、そのチャンスがこの長い「夏休み」にあるということです。

日頃、子どもとの時間がなかなか取れないという家庭でも、夏休みは一緒に過ごす時間も増えると思います。ぜひ、夏休みは子どもたちと一緒に体験し、団らんを深めてください。

校長 藤井 朗

### 学校でもいろいろな体験活動！

メダカのお世話（5年生）



夏野菜の水やり（2年生）



あさがおの観察（1年生）



子どもたちは、1学期に生き物や植物の世話を通して、授業での学びを確かめたり、命の尊さや自然への畏敬の念を育んだりしています。